社団医療法人 養生会　月刊発行新聞

かしま ほっとHOT ほっとhot 通信

10月号 Vol.321

令和元年（2019年）10月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団医療法人養生会

〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代)　fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は…
上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室（江坂 宛）まで
r-esaka@kashima.jp

ホームページ http://www.kashima.jp
かしま病院　検索

スマートフォンをご利用の方は、QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

1-2 巻頭特集
『9月からスタートした新しい部署「患者サポート室」と「広報企画室」のご紹介』
令和1年度『リハビリファミリー教室』開催しました。

3 お宅訪問隊
～住み慣れた 私たちの街で・・・～
コラム ひんがら目（148）
『折角取り交わした契約が・・・後で無効と言われても・・・』
呼吸器科 部長　山根 喜男

4 ようこそ家庭医療へ!
リハビリPOST
イベント開催予定のお知らせ
かしま荘通信

「世界糖尿病デー」in かしま病院

world diabetes day 14 November

日時　11月14日（木）9:00～11:30
会場　かしま病院　外来棟　受付そば
内容　血圧、体脂肪測定、血糖測定、糖尿病相談、服薬相談、栄養相談

糖尿病療養指導士の資格をもつ看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師が対応いたします。
ご自分やご家族、大切な人とともに、糖尿病について考える日にしてみませんか?

みなさんのご参加お待ちしております。
糖尿病サポートチーム

巻頭特集　9月からスタートした新しい部署「患者サポート室」と「広報企画室」のご紹介

かしま病院では9月から、「患者サポート室」と「広報企画室」の運用が始まりました。患者サポート室という言葉はあまり聞きなれないかもしれませんが、入院から退院まで患者さんやそのご家族を総合的にサポートする部署です。今回は、患者サポート室を中心に、新しく出来た部署を紹介します。

患者サポート室

患者サポート室とは?

患者サポート室の大きな役割は、患者さんの「入院から退院まで、安心して療養できるよう継続してサポートする」ことです。患者サポート室は次の3つの課から成り立っており、それぞれ患者さんの状況に応じて関わっていきます。

① 地域医療連携課
医療機関同士の連携の窓口となり、入院・外来診療・検査の受け入れや日程の調整を行っています。

② 医療社会福祉相談課
入院中の様々な問題（退院後の生活についてや、心理的・社会的・経済的問題など）の相談窓口として、入退院支援課と連携して相談援助を行います。

③ 入退院支援課
入院患者さんの状態を把握し、病棟の看護師と連携して適切な入院治療・看護を受けれるよう調整します。また、退院後の生活についても総合的にサポートします。

今回は、新設された入退院支援課にスポットを当て、業務内容を詳しく紹介していきます。

入退院支援とは?

▼一言で言うと、「その人らしい生き方の支援」です。

▼患者さんやご家族にとって入院治療を行う事は、病気の治療への不安や緊張、生活や経済的にも不安な要因がたくさんあります。そのような状況にある患者さんやご家族を、「その人らしい生き方」が出来るよう入退院支援看護師が支援していきます。

2に続く

▼入院される患者さんやご家族と面談をして、様々な問題を早期に把握し、安心して入院生活が送れるよう支援します。

▼退院に関わる問題に対しても早期から支援します。また、患者さんが一日も早く健康を回復し、住み慣れた生活の場に戻れる事を目指しています。

入退院支援課の役割とは？

▼2030年には3人に1人が65歳以上の超高齢化社会になると言われています。病院の中だけで医療が提供されていた時代は終わり、生活の場でそれぞれの人の価値観やニーズに合わせた医療を提供する事が求められ、地域全体で患者さんを支えていくための看護を考える時代になりました。私達は、病院から地域へとケアが繋がり、連携・協働する事で、地域で暮らす皆さんが安心して医療・介護を受け、その人らしい生活が送れるよう努めていきます。

▼入院となる患者さんが安心して入院生活を送れるように入院前から入退院支援看護師が患者さんやご家族と面談をし、患者さんの状態に応じ、医療ソーシャルワーカー等各分野の専門職が関わり患者さんを支援します。

▼入院前に患者さんの状態を把握し、入院に対する不安の解消を目指します。また、病棟看護師とも連携をとり、患者さん一人ひとりに合った入院治療および看護が提供出来るように努めていきます。

▼退院後の生活や医療費に関する相談、介護保険制度に関する相談等にも対応します。

患者さんにどのようなメリットがあるの？

▼入院前から入退院支援看護師が関わらせて頂きますので、不安や疑問等早い段階で伝えて頂く事で安心して治療を行う事が出来ます。

▼病気になって患者さんの状態が変わってしまい、家に退院したいけれどどうしたら良いの？等、退院後の生活を送るための様々なサポートをさせて頂きます。

▼退院後は施設に入りたい、費用はどの位かかるの？どうしたら良いの？等の相談にも対応します。

▼入退院支援看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、薬剤師、リハビリスタッフ等多くの専門職が居ますので、患者さんの状態に応じ専門性を発揮し支援させて頂きます。

▼中山大理事長が目指す「面倒見の良い病院」を目標にスタッフ一丸となり、患者さんやご家族を支援させて頂きますので何かお困りの事があれば、いつでもお声をかけて下さい。

広報企画室

広報企画室は、事務系職員４名で構成されています。主な業務としては、ホームページの管理・運用、病院広報物の作成などを行っておりますが、広報業務の経験が浅くまだまだ不慣れな所があります。

かしま病院と地域の皆さんをつなぐ窓口となって、楽しみながら色々な情報を発信していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和元年度

リハビリファミリー教室 開催しました

9月1日（日）

皆さんはリハビリテーション部が年に一度開催している「リハビリファミリー教室」をご存知でしょうか。入院中の患者様やご家族、通所・訪問リハビリを利用している方等を対象に、知って役立つリハビリ情報を提供する恒例行事となっています。

今年度は**「健康寿命を延ばそう～生活習慣病について～」**をテーマに９月１日（日）に開催しました。当日は22名（患者様・利用者様18名、ご家族４名）ご参加頂き、講義と実技、試食・試飲を交え９時から11時30分まで楽しく学んで頂きました。医師・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士が各々講師となり、それぞれの観点で４つの講義を開催しました。

医師（安斎勝行副院長）からは**「脂質異常症と高血圧をコントロールしよう」**をテーマに脳梗塞・心筋梗塞を引き起こす動脈硬化の危険因子である脂質異常症・高血圧についての解説、生活習慣の改善や運動の重要性について講義して頂きました。

栄養士からは**「食事と健康寿命」**をテーマに食生活で気を付ける事、必要なエネルギー量、適正体重について講義して頂きました。また、退院後陥りやすい低栄養についての原因や症状・予防する為の工夫についてもお話しして頂きました。

作業療法士からは**「健康のために今できること」**をテーマに生活習慣病（脳梗塞・高血圧・がん・糖尿病など）になりやすい生活や現状を説明しつつ、メッツ（身体活動の強さを表す単位）を活用しながら、身体を動かし楽しみながら汗を流しました。

言語聴覚士からは**「いつまでも美味しく食事をとるために」**をテーマに低栄養の危険因子であるオーラルフレイル（口腔の虚弱）について説明し、嚥下体操を指導。また、講演の最後にとろみ付き飲料、やわらか介護食（あいーと）の試食・試飲を実施しました。

参加された方からは、「大変参考になった」「退院後に役立てたい」「実際に運動や試食タイムがあり楽しかった」などの好印象の感想が聞かれました。

私たちの平均寿命は飛躍的に延びていますが、福島県では生活習慣病患者が多いのが現状です（生活習慣病による死亡者数第８位）。健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）を延ばす為にも毎日の運動習慣やオーラルフレイル・低栄養の予防が重要になってきます。みなさんも毎日の運動や食事面での工夫について見直してみてはいかがでしょうか。

お宅訪問隊

～住み慣れた 私たちの街で・・・～

訪問診療 個人宅編

かしま病院で取り組んでいる訪問診療は、施設入所者を対象にしていることが多いのですが、患者さんの自宅（以下、患家）に訪問するケースもあります。

患家に訪問診療となるケースは、基本的には患者さん御本人か、御家族のどちらかもしくは双方が「住み慣れた家で過ごしたい」という想いを強く持っていらっしゃる場合が多いと感じています。医療者としては、「この患者さんにはこういう医療を提供したい！」という考えが出てくる時もあるものですが、患者さんの想いや希望が第一だと考えています。また、通院が難しい身体的な状況（歩いて外出するのが難しい、など）を抱えている患者さんがほとんどで、身体機能が落ちていると病院で行う医療（手術など）には耐えられず、合併症のリスクが高い場合も少なくありません。そのようなわけで、訪問診療では痛みなどの症状緩和や全身状態の悪化を緩やかにしていくことが主になりますが、患者さんや御家族の希望に寄り添って、生活をサポートしていければと思いながら訪問しています。

かしま病院へ入院していた時は、覇気のない表情で、弱気なこともおっしゃっていた患者さんでも、退院してご自宅に訪問してみると、生き生きとした表情でいろいろとお話しして下さります。また、家のたたずまいや部屋に置いてある色々な物から、病院の病室では見えなかった、患者さんの人生や生活が見えてくることもよくあります。季節や行事のタイミングによっても家の装いは変わってきたりしますので、時間の流れを感じることもできます。

診察室とは異なる世界が見える！？訪問診療ですが、いわき市は広く、市内にある患家を一軒ずつ回るのは時間がかかり、私たち病院では外来や入院患者の診療も行っているため、訪問できる患者さんの数や地域には限界があります。訪問診療の依頼をいただいても、ご自宅の場所などからお断りをせざるを得ないケースもございます。

訪問診療に取り組む医療機関は増えてきているようですので、希望される方みなさんが訪問診療を受けて、住み慣れた我が家での生活を続けられるようになることを願っています。

かしま病院　総合診療科
藤原 学

ひんがら目(148)

折角取り交わした契約が・・・後で無効と言われても・・・

大坂なおみさんは、二重国籍とはいえ選手登録は日本であり、日本女子テニス界のスーパースターです。いろいろなコーチとの関係でマスコミの話題にもなっています。

元コーチからは、金銭契約のことで訴えられました。ジュニア時代に、彼女の才能を見抜いた元コーチは、経済的に困っている大坂家のことを慮って無償でコーチを引き受けました。その代わり、出世払いともいうべき「獲得賞金の20%を永久に受け取る」という契約を、彼女の父親と彼女の連名で取り交わしました。

世界ランク1位にまで達した彼女には莫大な賞金が入りましたから、元コーチには相当の報酬が払われたはずでした。ところが、この約束は守られず元コーチは裁判を起こしました。

訴訟を受けたフロリダ州の裁判所は訴えを退け、契約は有効ではなかったとして棄却しました。未成年との契約に際しては契約書を事前に裁判所に提出する必要があったのに、当時未成年であった大阪選手に対してはそのことが行われていなかったからです。

常識的に考えれば、この契約は大坂家とコーチとの間で、お互いに納得した契約だったと思われます。金銭的に困った大坂家にとってはありがたい契約でした。しかも、活躍しない場合には何の負債もないのですから損をする事はありません。大活躍さえしなければ、彼女の稼ぐ賞金の20%では元コーチへのコーチ料の後払いとしては足りないぐらいかも知れないので、問題なく支払われたものと思います。未成年の彼女との契約ではなく、彼女の父親との契約においてその義務はあると判断される筈です。もし、支払われなかったとしても、少額であれば元コーチも訴訟は起こさなかったでしょう。

不幸なことに、彼女が大活躍をしたため、永遠に受け取るべき賞金の20%の額が異常に高かったことが災いしたのでしょう。下世話にみても、大金を手にしようとするコーチの強欲さに妬みと非難が起こり、大坂選手に同情的な判決になったのかも知れません。

契約といえば、医師不足対策としての医学部入試での地域枠にも不安が伴います。奨学金受領の見返りに医師免許取得後地方勤務をするという契約は愚生の医学生時代からありました。愚直な医学生は義務を果たしましたが、賢明な輩はうまくすり抜けて来ました。才能のある人の中には、その才能を見込んだパトロンに負債を肩代わりしてもらって地方勤務を回避し別の進路を選んだ人もいました。

地域枠で合格しても、地域には卒後自分を活かせる場がない、自分は別の職場に向いている、などの理由で、義務を果たさない可能性があります。しかも、職業選択の自由などを法の後ろ盾にして、契約は反故にされる可能性があります。

数年後には地域枠で入学した医学部卒業生がたくさん出ます。初心を忘れず地域に赴任されることを期待します。

そして、いわき市をはじめ医師不足に苦しんでいる地域医療の改善に尽力して下さい。

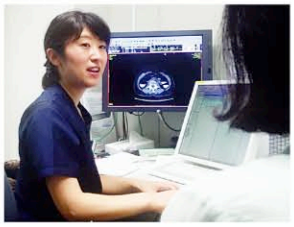
（呼吸器科　部長　山根 喜男）

ようこそ家庭医療へ！
～ いわきに生きる家庭医育成への挑戦 ～

第116回

外来で覚醒する若き医療人たち

診療部 石井 敦



皆さんは「診療所を受診したら担当が研修医だった」「かしま病院の外来で医大生を見かけた」なんていう経験はありませんか？近年、多くの研修医や医学生が、大学病院や大病院を出て、地域の診療所や中小規模の病院の一般外来で臨床研修・実習を行っています。外来を受診した時、いきなり研修医や医学生が担当になったら、不安に思われる方もおられるでしょう。時に「なぜ研修医や医学生に外来をさせるようになったのですか？」というお叱りに近いご意見をいただくこともございます。なぜ、若い医師や医師の卵たちを積極的に外来で研修・実習させるようになったのでしょう？

従来、医師の研修の場は大病院での入院管理や救命センター等が中心でしたので、研修医が外来を担当することは稀でした。しかし、高度な専門的治療を要する重症な患者さんが多い大病院の病棟や救命センターと、診療所等の一般外来とでは、患者さんの病状や求められる役割が全く異なります。したがって「入院患者さんや救急車で運ばれるような重症な患者さんが診れるようになれば、外来もおのずと対応出来るようになる」はずもなく、外来独自の研修をする必要があるのです。

医師の新しい研修制度が始まり、プライマリ・ケア能力（日常よく遭遇する医学的な問題への対応力）が、その到達目標として重要視されるようになりました。従来の研修医教育のなかで充分ではなかった一般外来研修も、その重要な一つとして義務付けられました。

私は医学教育に携わるようになった当初から外来研修の必要性を強く感じていましたし、何とかしないといけないという思いがありました。そこで、2008年から研修医や医学生の外来での指導を開始しました。多くの患者さんのご協力のもと、研修医・医学生らは、外来で求められる能力や役割を正しく理解し、外来でしか気付くことができない多くのことを学んでいます。

これからは、いわき市内の多くの診療所で外来研修の受け入れが始まります。皆さんがおかかりの医療機関の外来でもし若き医療人を見かけましたら、快く研修・実習にご協力をいただき、温かい励ましの一言でもかけていただけるとありがたいです。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。

リハビリPOST 第103回

整容・更衣について

今月は作業療法のリハビリとして行われる「整容・更衣」について説明します。「整容」とは、洗顔、整髪、口腔ケア、ひげ剃りなど身だしなみを整えることです。「更衣」とは、衣服を着がえることです。私たちは毎日、ほぼ決まった時間に洗顔や整髪、歯磨きをして、洋服を着がえます。そして整容・更衣を行うことにより、毎日の生活のリズムやからだの清潔さを保つことができます。しかし病気やけがなどで、それらを自力で行うことが難しくなる場合があります。障害があるためにベッドから起き上がる時間の少ない方にとっては、整容・更衣を行うということはダラダラしてしまいがちな入院生活においてメリハリをつけるという目的があります。そこでリハビリとしては片麻痺などによって片側の手の動きが不自由になってしまった方に対して、スムーズな整容・更衣動作獲得のための訓練や工夫を指導します。

更衣動作は片側の麻痺がある方にとっては簡単ではありません。まずは服を着る手順や体の動きを指導しますが、上手くいかない時には自助具という便利グッズを紹介することもあります。写真は、ソックスエイドと呼ばれる自助具です。人工股関節や関節リウマチなどで、足先まで手が届かない方が、靴下を履く時に使用します。病気やけがなど、からだの状態は1人1人違います。1人1人に合った方法を指導し、訓練を行っています。

整容・更衣は、からだをきれいに保つために身だしなみを整えて生活にメリハリをつける、大切な活動です。病気やけがなどで行いにくさを感じていることがあれば、リハビリスタッフに相談してみてください。

作業療法士　鳥居詩乃

かしま荘通信

泉幼稚園の園児さん来荘　9/10(火)

泉幼稚園様には、毎年敬老の日にちなみ訪問いただいています。今回は、110名の園児さんが集会室とデイサービスフロアに分かれて、歌の披露やわらべうた「あんたがたどこさ」で利用者様とふれあっていただきました。最後に園児さん手作りのでんでん太鼓をプレゼントして頂きました。

泉幼稚園の皆様ありがとうございました。

イベント開催予定のお知らせ

世界糖尿病デー in かしま	時間 9:00～11:30 会場 かしま病院　外来棟　受付そば	・11月14日（木）
家庭医療セミナー ～実践家庭医塾～	時間 19:00～20:00 会場 かしま病院コミュニティーホール	・10月17日（木）
ゆる体操教室	時間 1回目 13:30～14:30 2回目 15:00～16:00 会場 かしま病院コミュニティーホール	・10月 5日（土）
乳がん患者のつどい アイリスの会	時間 14:00～15:30 会場 かしま病院コミュニティーホール	・10月16日（水）
認定看護師による勉強会	時間 18:00～19:00 会場 かしま病院コミュニティーホール	・10月16日（水）

興味のある方は、お問い合わせください。